

若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP)
「地域研究のためのフィールド活用型現地語教育」

派遣後に求められる成果について

2012年5月改訂

ITP事務局

1. 研修成果物の提出

提出は帰国後 1 ヶ月以内、提出先は、ITP事務局です。提出しない場合、または、提出が遅れた場合は、「臨地語学演習」の各自の評価に影響するため注意してください。

(1) 報告書

帰国後に、次の3つの報告書を提出してください。

A. 日本語版

B. 英語版 or 仏語版 (Aに相当する内容)

C. 研修言語版(本人の研究テーマについて、語学研修について、などからテーマを選んで自由に記述すること。簡単な日本語要旨を添えること。)

A.~Cは、指定された項目について、各々の報告書様式(HP参照)に従って記載してください。

※ 報告書は、提出前に必ず主指導教員、または ITP 担当教員に見てもらい、添削指導を受けてください。その際、添削指導確認書にサインをもらい、報告書と一緒に ITP 事務局に提出してください。添削指導確認書はITPのHPよりダウンロードが可能です。

(2) 各自研究トピックに関する専門用語集(最低100語、上限なし)

研究トピックにとって重要な単語の現地語(今回習得の言語)語彙集を作成してください。

対訳は、日本語:現地語、英語:現地語、フランス語:現地語のいずれも可です。

現地語と日英仏のうちの複数との対照を推奨します。

派遣前のある程度の準備をしておくといでしょう。(論文執筆時を想定し重要単語を列挙しておくなど)

様式は、エクセルファイルで、各列の項目は、次の順で、記載してください。

番号(連番)、カテゴリー、現地語、日本語、英語、(フランス語)

<★A4 サイズにおさまるように表作成をお願いします。>

(例)

| No. | カテゴリー | インドネシア語 | 日本語 | 英語 |
|-----|------------|-----------------|------|------------|
| 1 | ベントス(底生動物) | kepiting kelapa | ヤシガニ | palm crab |
| 2 | | bulu babi | ウニ | sea urchin |
| 3 | 環境用語 | symbiosis | 共生 | symbiosis |
| 4 | | erosi | 侵食 | erosion |

(3) 音声データの収録ファイル

現地で、上記(2)専門用語集の順序に基づいて、先方の教師やその他のネイティブに発音してもらって録音して下さい。

音声ファイルにして HP に掲載します。「クリックすると現地の発音が聞ける」ようになります。そのため IC レコーダーを各個人に貸与するので、それを利用して収集データを提出してください。音声ファイルは、mp3 形式に変換し、1 単語につき1ファイルを作成してください。ファイル名は、①言語のアルファベット2文字+②派遣年度 2 文字+③各自の名前アルファベットの先頭文字2文字+④専門用語集の連番2文字(リストの連番と対応させてください。三桁以上の場合は、3 文字)でお願いします。

(例) In12Ni01.mp3～In12Ni99.mp3, In12Ni100.mp3

- ① Indonesia の In
- ② 2012 年度派遣の 12
- ③ 名前(Nishikawa)の Ni
- ④ 単語のリスト No の 01

(4) 写真/ビデオなど

授業風景の静止画像もしくは動画を撮影してください。派遣学生はいくつかのものには、被写体となってください。

写真は、3枚ほど報告書に添付してください。

動画の場合は、1分程度のファイルを、2, 3個提出してください。(動画は、撮影した場合だけで結構ですので、提出の義務はありません。)

プライバシー保護のため、先方の関係者が写る場合は、HP に載せてもよいか、確認をとってください。

2. セミナー等での報告

帰国後、プラクティカル・ランゲージ・セミナー等の場で、各自の派遣報告を行っていただきます。

3. 国際シンポジウムでの発信

今回受けた研修の成果として、国際シンポジウム等の場で自身の研究を報告し、国際的に発信していただきます。

以上